

魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:宇野明莉

所属:茨城県立水戸飯富特別支援学校

記録日:2019年 2月23日

キーワード:コミュニケーション、見通し、読み書き支援

【対象児の情報】

- 学年 小学部1年 男児
- 障害名 知的障害を伴う自閉症
- 障害と困難の内容

言葉で自分の気持ちを伝えることが難しく、納得がいけないことがあると、大きな声を出したり、物を投げたり、教室を走って出ていったりする。活動に見通しがもてず、「あと何分で終わる？」と何度も聞いたり、離席したりする。一つの行動を終えると手が止まり、教師の指示を受けて次の行動をするため時間がかかる。

【活動目的】

• 当初のねらい

① 見通しをもって行動し、自分で行動できる場面を増やす。

- 活動の見通しがもてず、「あと何分で終わる？」と教師に何度も聞くなど、終わりが分からないことに不安がある実態を踏まえて目標とした。

② 知っている言葉を増やし、自分の気持ちを落ち着いて相手に伝えることができる。

- 本児の「自分の思いを知ってほしい」という願いを叶えるため、自分が納得いかないことがあった時に、言葉で気持ちを伝えることができることを目標とした。

• 実施期間 2018年6月～

• 実施者 宇野 明莉

• 実施者と対象児の関係 クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

• 対象児の事前の状況

(見通しをもつ)

- 活動の手順が分からず、次の行動ができないことがある。
- 紙媒体の手順表は理解できるが、やることの変更があった時に対応することが難しい。
- 時計の読み方が分からない。



(言葉)

- 自分の名前の平仮名が分かる。
- 平仮名のなぞり書きができるが、書くことが苦手で、ひとりで鉛筆を持つことを嫌がる。
- 納得がいけないことがあると、大きな声を出したり、物を投げたり、教室を走って出ていったりする。
- 自分の好きな活動をする時は、「〇〇をかしてください」「〇〇をやりたいです」と伝えることができる。

・活動の具体的内容

(見通しをもつ)

① オリジナル手順表

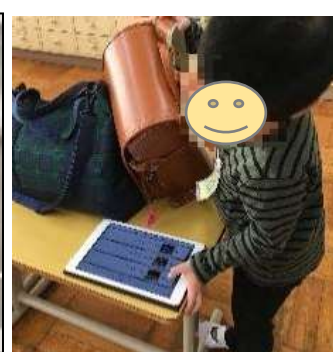
・取り組み時間：朝の時間

・アプリ：DropTalk



毎日の活動である“朝の荷物整理・着替え”の場面から、見通しをもって活動できるようにすることをねらいとして、“DropTalk”の手順表を活用した。児童が自分で撮影した写真を入れることで、字が読むことができなくても、何をすればよいか分かるようにした。また、終わった項目をタッチすると消えるよう設定することで、児童が次の行動が何か自分で分かるのではないかと考えた。また、全部の活動が終わると最後に好きな車の画像が出てくるよう背景画像を毎回変えて活用し、進んで行動することができるようにした。

最終的には手順表がなくてもスムーズに行動できることを目指すため、活動に慣れてきたら、手順表の項目を減らしていった。



取り組みの様子

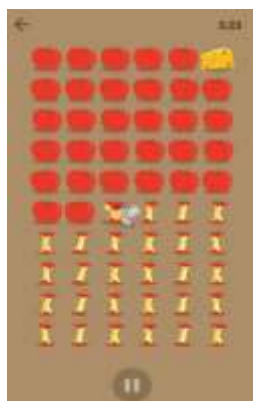
② イラストタイマー

・取り組み時間：自立活動

・アプリ：ねずみタイマー



時計の読み方をまだ学習していない児童の実態から、イラストで残り時間が分かる“ねずみタイマー”を自立活動の個別課題に取り組み時間（5分間）で活用した。聴覚過敏があるため、音量は小さく調整をした。



課題に集中できるよう、少し離れた位置に置く

取り組みの様子

(言葉)

③ 「読める」「書ける」言葉を増やす

・ 取り組み時間：国語

・ アプリ：ひらがなトレーニング



平仮名の学習ができるアプリケーションはたくさんあるが、物の名前はたくさん知っていること、書くことに特に苦手意識があることなどを踏まえて、読むことを重視して、“ひらがなトレーニング”を使用した。単語の〇に当てはまる平仮名を答える問題では、ヒントとして音声を聞くことができ、「できない」という不安が軽減され、一人で学習を進めることができた。また、画面の上には、全部で何問あって今の問題は何問目なのかが分かるようになっていて、学習の終わりも分かって取り組むことができた。



④ 気持ちを言葉で伝える

・ 取り組み時間：自立活動

・ アプリ：PowerPoint



嫌なことがあった時や思い通りにできなかった時、物を投げたり奇声を発したりするのではなく、言葉で伝えることをねらいとして、自立活動の時間に、グループ学習(小学部 1年男児 7名)で「こんなときどうする？」の学習を行った。できなくて困っている場面、友達におもちゃを取られてしまった場面、失敗してしまった場面等の学校生活で起こり得る場面を取り上げ、こんなときはなんて言えばよかったかを考え、発表した。

児童の発言を“PowerPoint”に書き込み、即時に自分の発言を見えるようにしたり、友達の発言を見て参考にできるようにしたり、保存しておくことで後で振り返ったりすることができるようにした。

例：自分や友達が飲み物をこぼしてしまった時 なんていえばいいかな？



T2が
児童の発言
をiPadに
書き込む

活動の様子



PowerPoint の画面

・対象児の事後の変化

①について

- ・活動に慣れてくると、「③と④をいっしょにやっちゃったよ」と手順表の2つの項目を一度に行うこともできるようになってきた。
- ・ほかの場面でも「1番〇〇, 2番△△」と手順を伝えと、スムーズに行動できるようになってきた。

②について

- ・タイマーをみて残りの時間が分かり、離席をせずに課題に取り組むことができるようになった。
- ・課題の途中でタイマーが鳴ってしまった時は、「あと3分追加してもいいですか？」と教師に聞き、自分で操作して最後まで課題に取り組むなど、意欲的に取り組む姿も見られるようになった。

③について

- ・平仮名を読むことができるようになり、片仮名にも興味が出た。
- ・文字に興味をもったことで、書くことにも意欲的になり、50音表を見て、友達の名前や好きな車の名前などを書いて楽しむようになった。

④について

- ・集団での授業へは消極的なことが多いが、自分の発言がiPadに反映されることが嬉しかったようで進んで挙手をして発表できるようになった。「そういう時は、ごめんねって言うよ。」「かしてって言われたら、いいよって言うよ。」等、場面に合った言葉を考えて発表できた。
- ・日常生活において、思いが通らず泣いている時に、「そういうときは何て言えばいいかな？」などの言葉掛けを受けて、気持ちを言葉で伝えることができるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

(見通しをもつ)

☆ 大好きなiPadと一緒にやる気アップ!

- ・DropTalkの手順表を活用することで、背景画像を児童の好きなものに毎日変えることができたり、予定変更に合わせて手順を変更したりすることができ、意欲的に安定した気持ちで取り組むことができるようになったのではないかな。
- ・手順表を活用したことで、行動を順序立てて考えることができるようになってきた。教師が、口頭で「今からやることは、1番〇〇, 2番△△です」と伝えても、理解できるようになってきた。

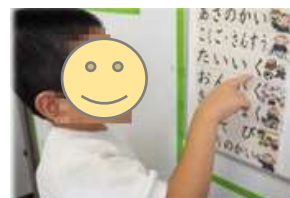
(言葉)

☆ 読むことの自信から書くことへの興味に発展!

- ・アプリケーションを活用して児童のペースで学習できたことで、「一人でできた」という達成感から、「読むことに自信が付き、「書く」ことへも興味が出たのではないかな。

⇒係の仕事に積極的に取り組むようになった

- ・朝の会で予定を発表する係に立候補し、クラスみんなに聞こえる声の大きさを、発表することができるようになった。



☆ 友達とのかかわりが増えた！

- ・言葉で自分の気持ちを相手に伝える活動を繰り返し行い、自分の気持ちを言葉にする力が身に付いてきた。
- ・自分の気持ちを言葉で伝える力が伸びたことで、大人に気持ちを汲み取ってもらっただけでなく、友達にも「話せば伝わる」ことが分かり、自分から話しかける様子が増えたのではないかな。



「ぼくは、こっちでやるよ」
ひとりで遊ぶことを好んでいた。

⇒



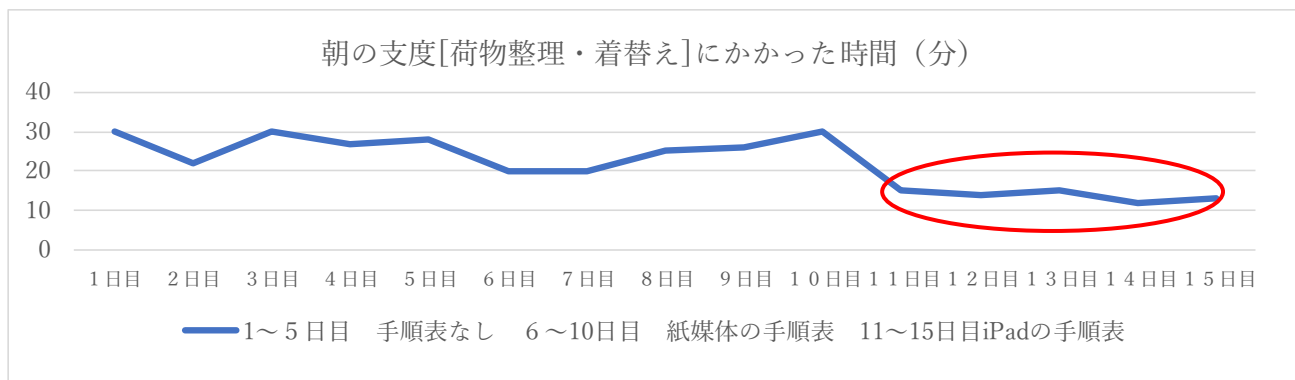
「〇〇くん、どっちが大きいか背くらべしよう」
「△△くん、ほらこれ見てごらん」等
自分から友達に話しかけることが増えた。

・エビデンス

(見通しをもつ)

①オリジナル手順表を活用しての 朝の支度にかかる時間の軽減

- ・4月：平均27分 ⇒ 7月：平均15分



- ・①手順表なしの時②紙媒体の手順表を使用した時③DropTalkの手順表を活用した時を比較して、③の時間が安定して短い時間で朝の支度ができた。

②イラストタイマーの活用で離席が減った

- ・自立活動の5分間の個別課題に取り組む時間(16回実施)において
イラストタイマーなし：6回中 1回離席なし ⇒ イラストタイマーあり：10回中 9回離席なし

(言葉)

「読める」「書ける」文字が増えた

- ・「読める」・・・4月：平仮名の清音5割 ⇒ 12月：平仮名、片仮名を確実に読むことができる
- ・「書ける」・・・4月：平仮名のなぞり書き ⇒ 12月：平仮名・片仮名の清音、曜日の漢字



↑4月

なぞり書きやりたくない！
「先生一緒に書いて！」
とよく言っていた。

↑9月

平仮名の清音を
書けるようになった。
※鏡文字になるものもある。

↑12月

片仮名も書けるようになった。
「もう平仮名はつまらないな」
と自慢げ。
※鏡文字になるものもある。



・その他エピソード

◎ 興味が広がった

・入学当初は、「車」が好きでそれ以外のものにあまり興味を示さなかったが、iPadの検索の仕方を知ると、アニメのキャラクターや虫などの気になったものを検索して、教師に話したり、絵を描いたりして、休み時間を楽しむようになった。



ランボルギーニのミニカー
がお気に入り

⇒



かな入力で検索



画像を見てお絵かき

・今後の見通し

(見通しをもつ)

・対象児は、見通しをもって学校生活を送ることができるようになってきた。今後は、保護者と連携して、家庭→学校→家庭といった1日を通しての見通しをもって生活できるよう支援していきたい。

(言葉)

・今年度は、文字への興味が出て意欲的に学習に取り組むことができるようになった。鏡文字になることや、拗音の誤字が見られるため、来年度は児童にあった教材で、確実に書くことができるよう指導していきたい。